

足立巻  
一  
え・津高和一

# 非悪心童 物語

## 絵 15

ぼくたちは「悪童」ではなかった。  
しかし「善童」でもなかった。

小学校へかよう朝は、いつも敬ぼうとトオルさんと三人づれであった。

ぼくと敬ぼうとは、黒いモメンのズボン、折りエリの上着をつけ、トオルさんひとり筒袖のきものを着て前かけをしていた。

ぼくの洋服とカバンとは新しかった。それがひどく恥ずかしい。

「学校へはこれを着ていくんですよ」

伯母がぼくを学生服屋へつれていったときは、まったく弱った。これまで洋服は一度も着たことがなかった。東京と長崎との学校では、いつもスネ坊主の出るきものを着、ゾウリをはいてかよった。それが神戸では洋服を着るのだと聞かされて仰天した。それで、トオルさんだけがカスリのきものを着て、袖を鼻汁でピカピカ光らせているのがうらやましかった。第一、洋服では袖で鼻もふけないではないか。

ぼくたち三人は横にならんで歩く。ぼくはキョロキョロあたりを見まわして歩き、敬ぼうは色の黒い顔をまっすぐに立てて正面ばかり見て歩き、トオルさんはすこし前かがみになり、足もとを見すえるようにして歩く。

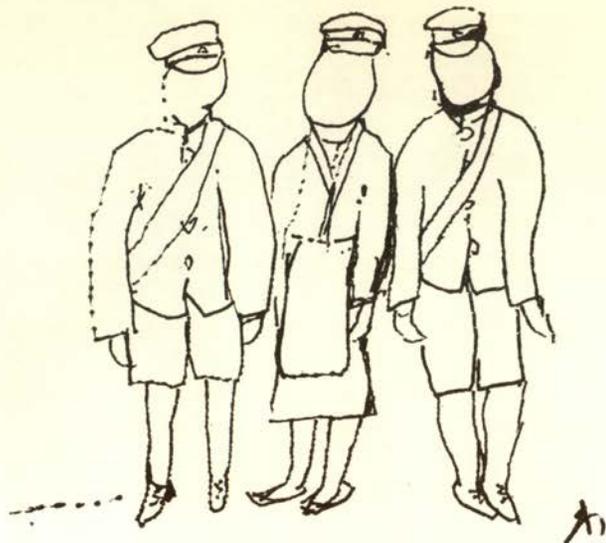
たいいてい、敬ぼうの店に集まる。その家は、生田筋の

前号まで 父は二六新報という新聞の同人であったが、ぼくの生後四カ月で急死し、ために母と実家へ帰り、ぼくは東京で漢学者の祖父、祖母に育てられた。ところが祖母も小学一年生のときに死去し、祖父につれられて故郷長崎に引きあげたが、その祖父も死んで孤児となり、親戚の寺や染物屋で養われていた。それが急に神戸の母の実家へ引き取られることになった。

文房具屋で、ぼくの伯父の店から五軒ほどくだったところにある。おとうさんは色が真黒で、かたいヒゲを立てていたが、船長さんということではいふまでもなかったし、店には髪をハイカラにしたきれいなおかあさんしかいなかった。集まりやすかったのだ。

道順は敬ぼうの店から、生田筋を山手へまっすぐにのぼる。生田神社の東門を過ぎると、道はカーブしながら坂となり、三角帳場に出る。

そこに東西に市電の山手線が走っていて、中山手一丁目の停留所があり、こんどは市電にそって西へとたどる道にはいちめん、小石を敷いてあって時おり、みどり色の電車がぼくたちを追いこし、あるいは前方からチンチンチンと金属音をひびかせてやってくる。



とらない。中山手三丁目から、市電にわかれてまっすぐのびる道を歩く。

するとほどなく、県庁へ北からくぐる広い道に出る。その四つ辻の西北の角は小寺謙吉という人の、城のような屋敷だし、北東の角は山手小学校だ。女の子ばかりの小学校ということで、いつも小鳥のようなかわいらしくてにぎやかな声がおこっている。ぼくはその声を聞くと小学校のなかをのぞきみたい気分になる。そのくせ、なんだかこわくて目もろくろく向けずに通りすぎる。

山手小学校のすぐ北となりが、ぼくたちの諏訪山小学校だ。食パンのように四角くて長くて、白い鉄筋コンクリート建てが校庭をはさんでならんでいる。

ぼくは長崎から神戸の伯父の家に引き取られると、すぐ伯父につれられてこの小学校へいった。きっと、転校の手つぎをするためだったのだろう。そのとき、学校は春休みで、がらんと静かであった。

伯父は口数がすくないうえに、眉がサムライのようにつりあがっていたので、ぼくにはとても恐ろしく見えた薬剤師なので店ではいつも白い調剤服を着ていたのだがその日は上等のきものを着てぼくを従えて小学校へ足早に歩き、ぼくは遅れまいと小走りであしからついていた。伯父はぼくを一度もふりかえらなかつたし、声もかけなかつた。それが校門をくぐるとき、はじめて「これがおまえの学校だ」

と、だけいった。その門がセメントであり、校舎が西洋館であるのにびっくりした。恐ろしい気さえ、した。長崎の小学校はどれも木造で、壁には細長い板がヨロイ戸のように丹念に打ちつけてあって、それが親しみ深い色に焦げていたことを思い出したものだ。

そのとき、ぼくと伯父とはからっぽの二年生の教室で受けもちの井上先生と長いこと話した。といっても話しこんだのは伯父と井上先生とである。

先生は三十歳すぎであろうか。アゴが張って四角い顔をし、真黒で固い髪にポマードをべったり塗っていた。

しばらく歩くと、市電通りの浜側に中国人の学校だという同文学校がある。

赤レンガの高いヘイをめぐらし、いつも門をかたく閉じているけれど、こどもたちのにぎやかな声もれる。校庭で遊んでいるらしい。ヘイのうえにボールがとびあがったりする。しかし、声の意味はさっぱりわからないそれがふしぎだった。

やがて、中山手通三丁目の停留所になる。そこから市電は左へすこしカーブしてゆるい坂をくだり、また、のぼりとなって県庁前へ出るのだが、ぼくたちはその道は

その油のにおいが気味わるくにおう。

「どうして一年、学校が遅れたんですか？」

井上先生はそんなことを聞いている。伯父がぼくの上話をし、じいさんと放浪していたために遅れたというような説明をした。井上先生はそれに深く何度もうなずいたが、ぼくはじいさんが悪口をいわれているようにいくらか腹が立った。しかし、なんにもいわなかった。つぎの日、ぼくひとりで転入の書類を学校へ持っていた。

やはり、井上先生はからっぽの教室のまんなかで、こどもの机にすわって答案らしきものを調べていた。



天才少年足立画伯満五歳の筆になる「赤穂義士銘々伝」の図の一部。文の補筆は祖父敬亭翁という。絵は人物の動きをよくとらえてなかなかうまいと思う。

(津高一)

ぼくはだまって、書類をさし出す。

すると、先生はぼくをいきなり抱きかかえ、ほおづりした。あのポマードのにおいが鼻孔を刺した。

「しっかり勉強するんだよ」

先生は抱きかかえたまま、そういった。

ぼくはひどく恥ずかしく、恐しかった。抱かれた記憶は一度もなかったからだ。先生はぼくのおわれな境遇に同情されたからにちがいないかったが、ぼくには自分是他人から抱きかかえられるに値する人間では決してないという奇妙な確信、つまり、だからかわいがられることのない少年という自信が強かったので、すっかりとまどった。きつと、顔は真赤に紅潮していたのにちがいない。

ぼくたちが三人づれで登校したのには、わけがある。

生田筋の東側は下山手通一丁目で校区は諏訪山小学校だけれど、西側は中山手通一丁目になっていて、校区は北野小学校だ。西側には市場もあってことも多いが、みんな北野小学校にかよっている。ところが、西側は生田神社で人家もすくないし、二年生ではぼくたち三人しかいなかったのだ。

諏訪山小学校にかようようになつたはじめ、敬ほうとふたりだけでかよった。しかし、敬ほうとは学級がちがい、校門をくぐると別々になる。するとまもなく、おなじ学級にトオルさんという少年のいることがわかった。帰りみちにたまたまいっしょになったのだ。

名を聞くと「トオルさん」と答えた。

生田筋に神社の東門の鳥居が立っている。それをくぐると、百メートルたらずで東門となるのだが、その参道の右側は広っぱで、そのむこうは生田さんの森だ。また左側の角は金物屋で、それならんで染物屋があり、生田屋というシュークリーム屋で東門となる。

その染物屋の手前から左へ折れる露路がある。露路はいったんカギの手に小さくまがってから、生田筋に平行

した裏道となり、両側には長屋がならぶ。

トオルさんの家は、そのなかほどの一軒で、ほぼぼくの伯父の店の裏側にあたる。

トオルさんの家には、オトナはひとりもいなかった。かれはちいさな弟と妹との三人、こどもばかりでくらしていた。おとうさんは船長というこゝろでいつも家にはいなかったし、おかあさんは早く死んだという。それで、トオルさんはまだこどもなのに、ご飯をたいて弟と妹とに食べさせていることがあった。もっとも、いつもはとりのおばさんが世話をしていたらしいが。

トオルさんは目が大きくて、深い二重まぶたで、くちびるが真赤な少年だった。かしくくて、孝行少年という評判もあった。

家が近くだということを知って、はじめていっしょに学校から帰る途中、トオルさんがいった。

「ご飯すんだら、絵をかきにいこうや」

ぼくは「よし」と、すぐ承知した。二年生の授業は午前中だったし、昼食をいただくと、クレヨンと画用紙とを持ってトオルさんの家をたずねた。格子をあけるとすぐ土間になり、その奥の部屋でトオルさんは妹にご飯をたべさせているところだ。

「待っててな」

トオルさんはそういって、しばらくして画用紙を持ってあらわれたが、その紙の大きいのを目を見張った。ぼくの画用紙の倍以上もある。

「トール・ホテルへいこう」

トオルさんはそういってぼくを案内した。山手線の市電通りに出、さらに山手へ急な坂をのぼって左へ折れると、赤いのがった屋根を二つならべた黄色い円筒形の西洋館が坂のうえにあらわれた。春の午後の日光にテラテラ光っている。ちょうど、トール・ロードを登りつめたあたりだ。

トオルさんは道ばたにきもの尻をおろすと、さっそく大きな画用紙に黄色のクレヨンで輪郭をとり、赤や青

や黄を塗りはじめた。

ぼくはどこから手をつけていいかわからず、トオルさんの手の動きばかり見ていた。すると、画用紙のなかにたちまち色どりあざやかな西洋館が浮かびあがった。

ぼくはすっかり感心した。ところが、トオルさんはせっかくなにか暗い絵になって、どうしてそんなことをするのかと思つたら、トオルさんは「これでええのや」といい、画面に何度も目を近づけたり離したりした。

ぼくも絵が一番好きだったし、自信に満ちていた。五歳のころからじいさんに絵具を買ってもらい、じいさんが門人に漢学を講義しているとき、そばで絵ばかりをかいた。その絵は「赤穂四十七士銘々伝」や歴史画や武者絵ばかりであった。じいさんがそんな絵本を買ってくれたので、それをまねてかくのである。

それは、じいさんや門人などのおとなをも感心させたらしい。じいさん、ばあさんと長崎へ帰ったときがあるが、そのときもまっさきに机を所望して武者絵をかくのにふけた。親戚のおとなどもは、口をきわめて感嘆したものだ。ぼくは普通のこどものように、そとで遊びまわりたいと思つたことは一度もない。絵をかいていればそれでいい。小学校にはいらぬうちから、赤穂四十七士の名は全部知っていたし、その名を漢字で書くこともできた。絵本のとおり墨でうつつし、それに原色の水彩絵具で着色する。さらに説明文も書きうつつす。もっとも、文字はじいさんが補筆してくれたが。

ところが、クレヨンは使つたことがなかった。神戸に移つて、はじめて学用品として買ってもらったばかりだった。それはかきなれた筆のように走らず、画用紙のうえに泥のようにべったりくっつく。それに第一、景色の写生などはしたことなかつたので、ただただトオルさんのかきぶりに感心するばかりであった。

と、同時にたいへんくやしかった。トオルさんがにくらしかった。

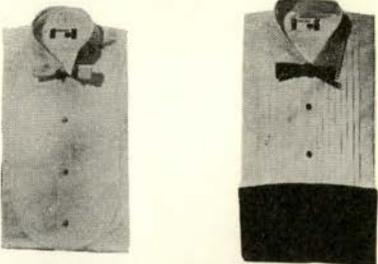


ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

## 三恵洋服店

元町4丁目 TEL ☎ 7290

KOBE  SHIRT



よろずの襟衣縫上處

## 神戸シャツ

神戸店-神戸大丸前 33-2 1 6 8  
 東京店-東急日本橋店1階 211-0511 内線219  
 東急渋谷本店6階 462-3433



Mr. Kent  
 came to Kobe  
 流行に左右されない  
 本来のオシャレ  
 それがKentです  
 シックな  
 スコッチ風の店舗  
 それがFunakiyaです

オシャレ洋品の店

## フナキヤ

元町3 TEL <33>3617



高級紳士服専門店

## 神戸テーラー

さんちかメンズタウン TEL ☎ 0388  
 生田区北長狭通2(阪急西口) TEL ☎ 2817・3173

シャレたセンスの舶来品が揃っています



元町2丁目  
☎4707-8

創業明治二十八年

# 履物の山下

古い老舗に新しいセンス

神戸 三宮センター街

TEL ☎ 0256

確実正札 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店



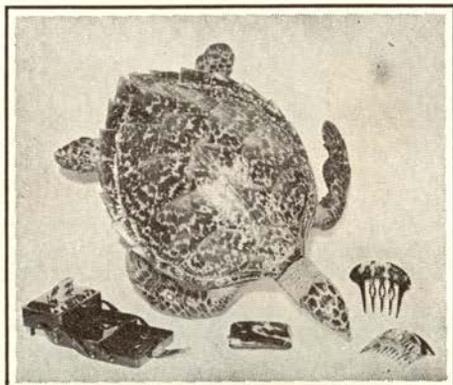
創作ハンドバッグ  
工芸品 ORIGINAL

神戸 ■ 元町

ACCESSORIES

## イクシマヤ

TEL. (33) 2415・2416

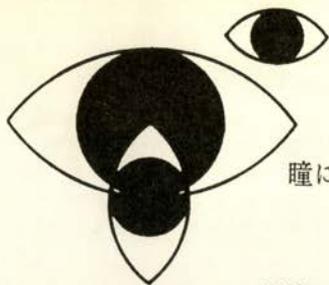


センスあふれる

べっ甲専門店

## 太田鼈甲店

元町1丁目 TEL ☎ 6195



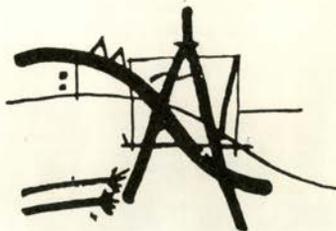
瞳に美しさを保つ  
 スポーツに  
 美容に  
 現代の科学が生んだ  
 コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員

**国際コンタクトレンズ研究所**

神戸市灘合区御幸通八丁目九ノ一（三宮駅前）  
 神戸国際会館内 TEL (22) 8161・(23) 2570

額縁絵画・洋画材料  
 室内工芸品



**末積製額**

三宮・大丸北  
 トア・ロード  
 ☎1309・6234



**大上靴店**

元町通1丁目 TEL 33・3962  
 さんちかメンズタウン TEL 39・4627



羽アリを見たら  
**危険信号**



**白アリ**

一回全滅 十年間責任保証  
 兵庫県環境衛生事業協会理事  
 日本白アリ対策協会認定防除施工士  
 神戸商工会議所会員

**アイワ消毒株式会社**

神戸市生田区中山手通3-52  
 トアロード筋

TEL (39)8636 (33)0854

# 神戸名物

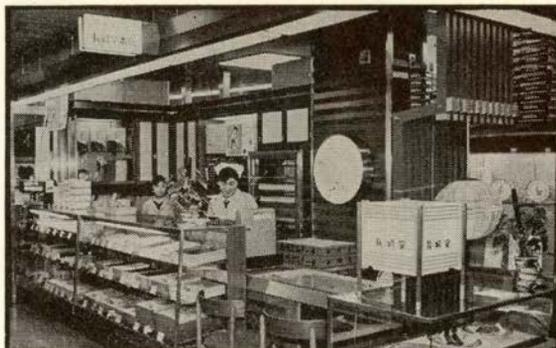
瓦せんべい  
欧風煎餅

クリームハッピー  
クレームパピロン

創業明治6年

## 龜井堂總本店

本店 神戸元町通6丁目浜側 ㊤ 0001-3  
売店 神戸/三越、そごう百貨店 大阪/阪神甘  
辛のれん街、近鉄百貨店、松坂屋百貨店 東京/  
小田急百貨店、小田急のれん街、新宿ステーショ  
ンビル有名物産内 九州/小倉東映、博多民衆駅



ご贈答に風味豊かなカステーラ

## 長崎堂本店

本店=大橋町5大五ビル (61) 0553-4  
新開地店=松竹座前 (56) 2423  
元町店=元町 (34) 4130  
さんちかスイーツタウン (39) 3625

The  
Cosmopolitan  
Valentine F. Morozoff

## コスモポリタン チョコレート・キャンデー

神戸本社店	神戸市生田区三宮町1丁目170	電話 33-5304
神戸直売店	神戸市生田区三宮町1丁目	電話 33-1217
大阪堺筋店	大阪市東区淡路町2丁目	電話231-6979
大阪心斎橋店	大阪市南区安堂寺橋通4丁目	電話251-4182
東京銀座店	東京都中央区銀座8丁目	電話571-2303
東京新宿店	東京都新宿区角筈1丁目 新宿ステーションビル地下2階	電話352-2436

東京有楽ビル店 東京都有楽町 有楽ビル 電話 213-2821  
東京国際ビル店 東京都丸の内 国際ビル 電話 212-3746

やっぱりうまい  
むさしのとんかつ

でんわ・  
32 32 33 一三七七一  
〇〇六三四  
〇六三五

ヨバ三宮  
ムサシ

神戸っ子のみんなに愛される落ちついた喫茶店



ai

TEA ROOM

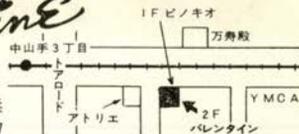
喫茶 愛

★神戸・元町本通元一ビル2階 TEL (32) 0958



スナック& プレイラウンジ バレンタイン

Valentine



KOBE・中山手2丁目電停浜  
YMCA西 TEL 32-2967

おすし  
てんぷら



崇  
彌



支店  
TEL 523街  
③⑨  
523街  
味ののれん街

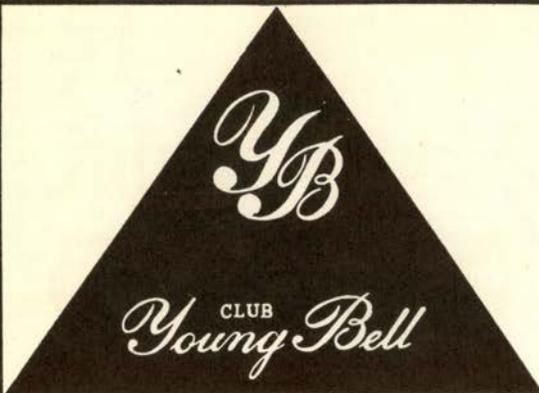
本店  
大丸前・三宮神社東  
TEL ③③  
57742

(毎週月曜日休み)

営業時間  
A. M. 11.30 ~ P. M. 9

色・味・香り  
三つ揃った  
灘の生一本  
清酒  
キンロ

■神戸市東灘区魚崎町魚崎356  
金露酒造株式会社



松田 真理子  
生田・中山手2丁目89・光ビル1階 TEL 33-3052



night cap  
TEL 39-2616  
**むらかみ**  
神戸市生田区加納町4 (阪急三宮山側但馬銀行北小路入る)

★大小宴会、Tea Partyにご利用下さい★



ホンリユ料理を  
ご用意しております

- ・ビーフホンリユ  
¥1,500.-  
(サラダ、コーヒー、  
ブレッド付)
- ・ラムホンリユ  
¥1,000.-  
(サラダ、コーヒー、  
ブレッド付)
- ・チーズホンリユ

RESTAURANT **DANA GARDEN "PUB"**

欧風料理とステーキ

ダナ・ガーデン・パブ

AM12.00～AM3.00まで

年中無休

三宮町3 三宮ビル地下②1810




洋酒の店 キャンテイ  
**Chianti\***  
紳 晴 夫 TEL(39)3060  
213KITANAGASA-DORI IKUTA-KU KOBE